

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア



インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		11/3 （10/27との比較） 今後の見通し （※4）	11/3 （10/27との比較） 今後の見通し （※5）	前年比 （※3） 景気の方向性 （※6）	先週末 方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	1.96% （▲0.03）	89.37円 （+0.69%）	+3.7% 2017年2Q	1.00%	製造業PMIは前月から低下、失業率は市場予想に反して上昇。8月のGDP（国内総生産）も市場予想を下回るなど、経済指標は軟調な結果。国債利回りは低下。カナダドルは対円で上昇。	住宅着工件数などの発表を予定。原油価格が安定している中、NAFTA（北米自由貿易協定）再交渉の不透明感から、カナダドルは上値の重い展開を想定。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 利上げ局面		
ブラジル 	BB	9.66% （+0.32）	34.42円 （▲2.01%）	+0.3% 2017年2Q	7.50%	鉱工業生産や貿易収支は市場予想を下回る結果。景気が回復し、インフレ率も落ち着いていることを背景に、中銀は今後も利下げが続く可能性を示唆。国債利回りは上昇。レアルは対円で下落。	主要な経済指標の発表は無し。テメル大統領を巡る政治的なリスクは残存するものの、債券・為替市場は他国の経済動向に左右される展開を想定。
	Ba2	 金利低下		 景気回復	 利下げ局面		
メキシコ 	A	7.07% （▲0.03）	5.94円 （▲0.02%）	+1.6% 2017年3Q	7.00%	中銀総裁は、インフレ率がピークをうち、来年にはインフレ目標を達成できるとの見通しを示唆。GDPは9月に起きた地震・ハリケーンが経済に影響を与えたため減少。国債利回りは低下。ペソは対円で小幅下落。	政策金利は11月のFOMC（米連邦準備制度理事会）での利上げ見送りを受け、据え置きを予想。CPIは前月とほぼ変わらず、インフレの一服が確認される見込み。今後の結果次第で中銀の政策姿勢は変更される可能性がある。
	A3	 金利上昇		 景気安定	 据え置き局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。













※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

	格付 (※1)	債券 (※2)	為替 (対円)	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		11/3 (10/27との比較)	11/3 (10/27との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
オーストラリア 	AAA	2.57% (▲0.20)	87.27円 (▲0.00%)	+1.8% 2017年2Q	1.50%	小売売上高や中国の製造業PMIが市場予想を下回ったものの、貿易収支や住宅建設許可件数は市場予想を上回るなど経済指標はまちまちな展開。オーストラリアドルは対円で横ばい。国債利回りは低下。	政策金利などの発表を予定。足元の弱いCPIや個人消費などを受けて、市場予想では据え置かれる見込み。四半期金融政策報告書で、インフレ見通しが下方修正されれば、オーストラリアドルは弱含む可能性。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		
ニュージーランド 	AA+	2.85% (▲0.19)	78.79円 (+0.77%)	+2.5% 2017年2Q	1.75%	企業景況感が低下し住宅価格の上昇率が鈍化した一方、雇用者数の増加は市場予想を上回り、失業率も改善。雇用環境が改善したことを受け、ニュージーランドドルは対円で上昇。国債利回りは低下。	政策金利などの発表を予定。雇用関連の統計に改善が見られたものの、全体として景気拡大に勢いは見られず、インフレ率も落ち着いているため、政策金利は1.75%で据え置かれる見込み。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	1.56% (▲0.08)	13.95円 (▲0.19%)	+0.2% 2017年2Q	0.50%	失業率は改善し製造業PMIも上昇したものの、小売売上高は前月に続き大幅な減少を記録。景気回復が緩やかであることが改めて確認され、ノルウェークローネは対円で下落。国債利回りは低下。	欧州の指標原油価格である北海ブレントは62米ドル台まで上昇しているものの、景気回復のペースは依然緩慢。鉱工業生産やCPIなどの発表が予定されるが、景気や金融政策の見通しに大きな影響は与えない見込み。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		

(出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成)

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		11/3 （10/27との比較） 今後の見通し （※4）	11/3 （10/27との比較） 今後の見通し （※5）	前年比 （※3） 景気の方向性 （※6）	先週末 方向性 （※7）		
南アフリカ 	BBB-	8.24% （+0.18）	8.03円 （▲0.33%）	+1.1% 2017年2Q	6.75%	貿易収支は黒字幅が縮小、製造業PMIは市場予想を上回ったものの、さえない結果。債務格付けの先行き不透明感を受けて、国債利回りは上昇。ランドは対米ドル、対円でともに下落。	製造業生産や企業景況感などの発表を予定。格下げ懸念が高まる中、米大手格付会社のレビューを控え、債券・為替市場は軟調な推移を予想。また、来月には与党党首選を控え、政治に注目。
	Baa3	 金利上昇	 景気鈍化	 利下げ局面			
インドネシア 	BBB-	6.31% （▲0.15）	0.85円 （+1.20%）	+5.1% 2017年3Q	4.25%	製造業PMIは50を超える水準を維持。CPIの伸び率は鈍化。31日に行われた国債入札では、投資家の需要が強かったことなどを受け、国債利回りは低下。ルピアは対円で上昇。	GDPの発表などを予定。GDPの伸び率がさえない結果となれば、中銀による金融緩和への期待が高まり、国債利回りは低下しやすい地合いを予想。一方、ルピアは安定的に推移する見込み。
	Baa3	 金利低下	 景気拡大	 利下げ局面			
インド 	BBB-	6.72% （+0.00）	1.77円 （+0.71%）	+5.7% 2017年2Q	6.00%	製造業PMIは前月比で低下したものの、50を上回る結果。財務省は2017年度の間接税収入が目標に達しない可能性があるとして指摘。国債利回りは横ばい。ルピーは対円で上昇。	鉱工業生産などの発表を予定。伸び率は前回より低下すると予想されるも、緩やかながら成長を確認する内容となる見込み。世界銀行発表のビジネス環境ランキングの躍進も下支えとなり、債券・為替市場は底堅い展開を想定。
	Baa3	 金利横ばい	 景気回復	 据え置き局面			

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

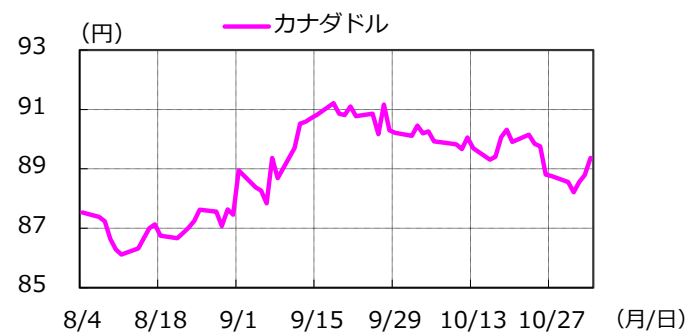
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。

※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

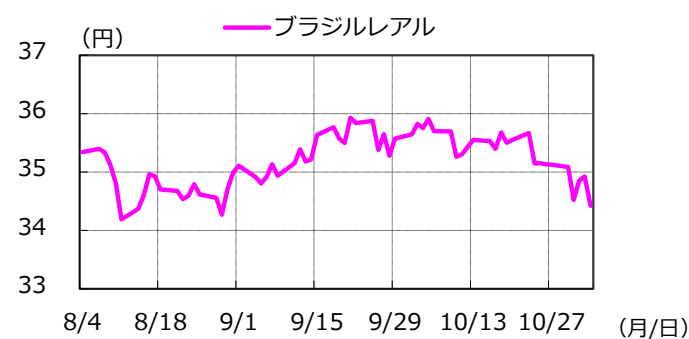
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/8/4～2017/11/3

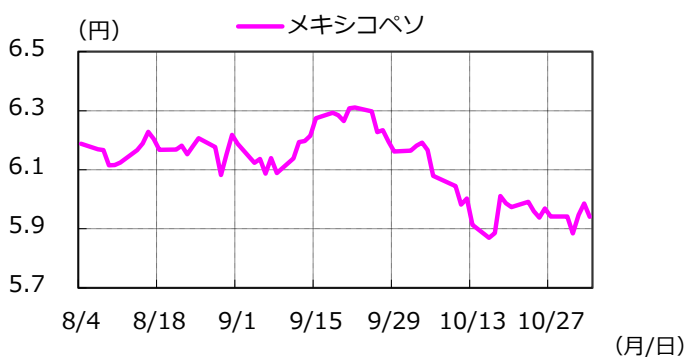
カナダ



ブラジル



メキシコ

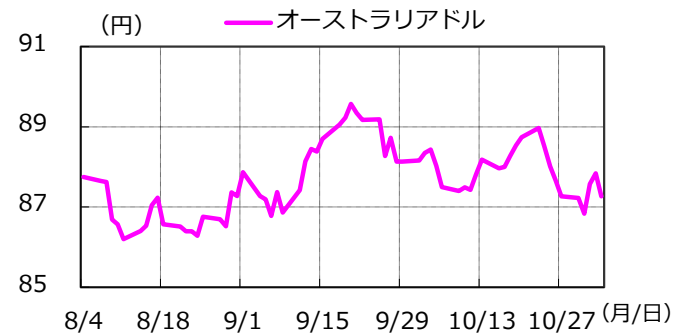


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

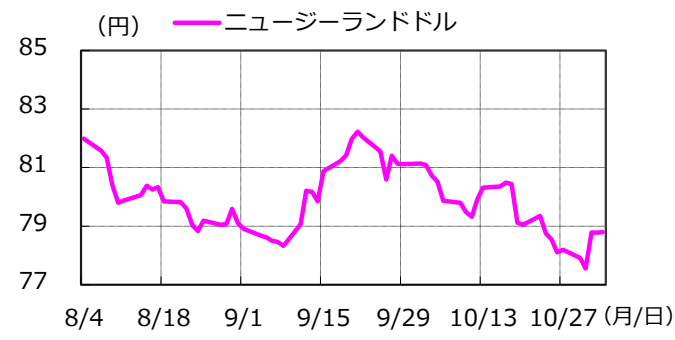
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/8/4～2017/11/3

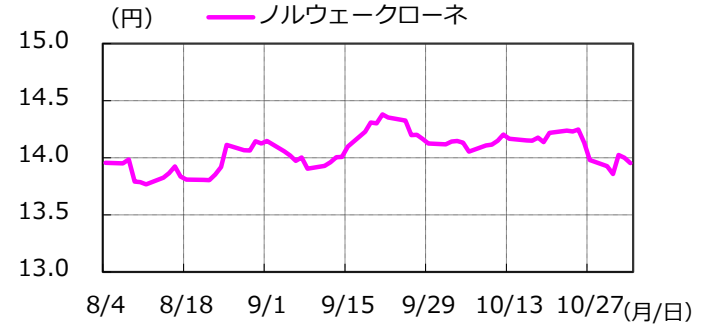
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

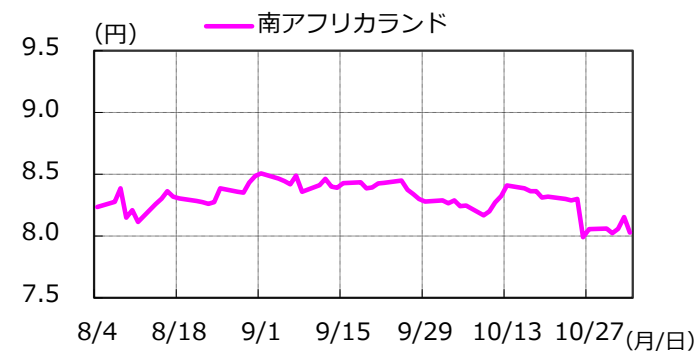


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

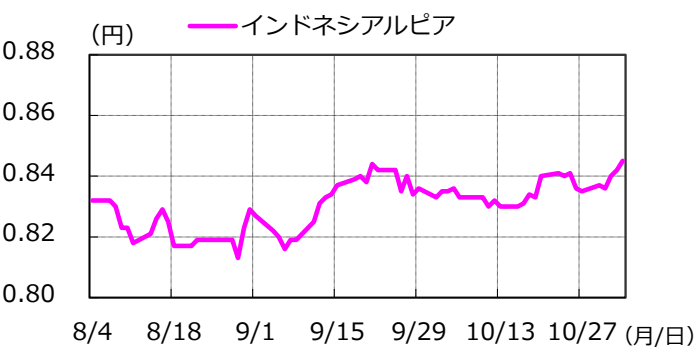
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/8/4～2017/11/3

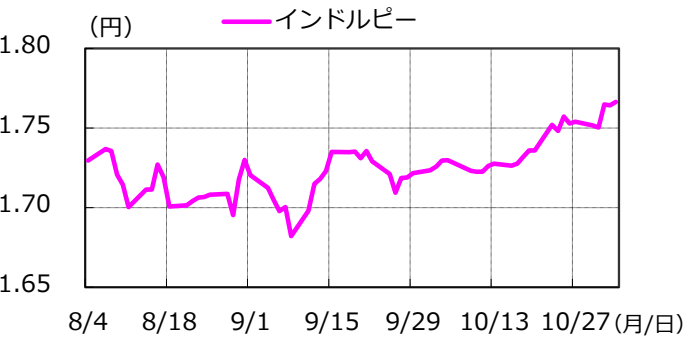
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。